

# 太田商工会議所管内景況調査報告書

(第103回)

2022年 7月 ~ 9月期 実績

2022年 10月 ~ 12月期 見通し

## 太田商工会議所

〒373-8521 群馬県太田市浜町3-6

TEL 0276 (45) 2121

FAX 0276 (45) 1088

URL <http://www.otacci.or.jp>

E-Mail [info@staff.otacci.or.jp](mailto:info@staff.otacci.or.jp)

# 太田商工会議所 景況調査 目次

調査要項・・・・・・・・・・・・・・・・	1
調査目的や対象企業（業種）、回答率など	
設問に対する業種別回答・・・・・・・・	2
9つの質問に対する業種別による回答状況	
業種別D I 値について・・・・・・・・	5
6つの業種ごとのD I 値及び回答企業からのコメント	
全体D I 値について・・・・・・・・	9
全ての業種を併せたD I 値と1年間の推移	
比較資料編・・・・・・・・・・・・・・・・	10
同様の景況調査を行っている機関とのデータ比較 （中小企業基盤整備機構、日本商工会議所LOBO調査、日銀短観）	

## 【調査要項】

### 1. 目的

管内経済動向を把握し、併せて経営者への情報提供とするとともに、今後の経営指導の資料とする。

### 2. 調査時点及び対象期間

- ① 調査時点 2022年9月
- ② 調査対象期間 今期（2022年7月～9月期）に対する前期（2022年4月～6月期）及び前年同期（2021年7月～9月期）との比較実績、並びに今後3ヶ月間の業況見通しについて調査。

### 3. 調査対象

当所会員事業所の業種を5つ（製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業）に分類し、製造業に関しては、更に「輸送機器」と「その他製造業」に分けた。

調査対象先の企業数については、太田商工会議所会員事業所の業種割合にて按分し、下記の通り調査を実施した。

### 4. 回答状況

	依頼数	回答数	回答率
全 体	270	→ 218	80.7 (%)
輸送機器	40	→ 31	77.5 (%)
その他製造	40	→ 37	92.5 (%)
建設業	50	→ 43	86.0 (%)
卸売業	30	→ 22	73.3 (%)
小売業	40	→ 34	85.0 (%)
サービス業	70	→ 51	72.9 (%)

### 5. D I 値について

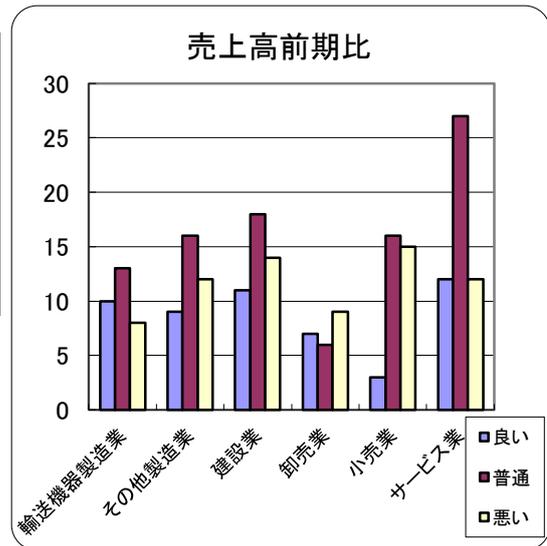
D I とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、良い（増加）と答えた企業の割合から、悪い（減少）と答えた企業の割合を引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

(例：ある設問において、「良い」と答えた企業…15% 「悪い」と答えた企業…25%の場合、D I 値は▲10.0となる。)

## (1)設問に対する業種別回答

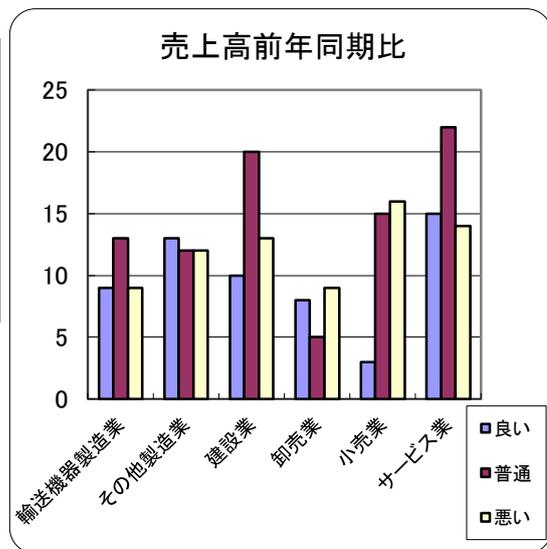
### 売上高前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	10	13	8	31	6.5
その他製造業	9	16	12	37	▲ 8.1
建設業	11	18	14	43	▲ 7.0
卸売業	7	6	9	22	▲ 9.1
小売業	3	16	15	34	▲ 35.3
サービス業	12	27	12	51	0.0
合計	52	96	70	218	▲ 8.3



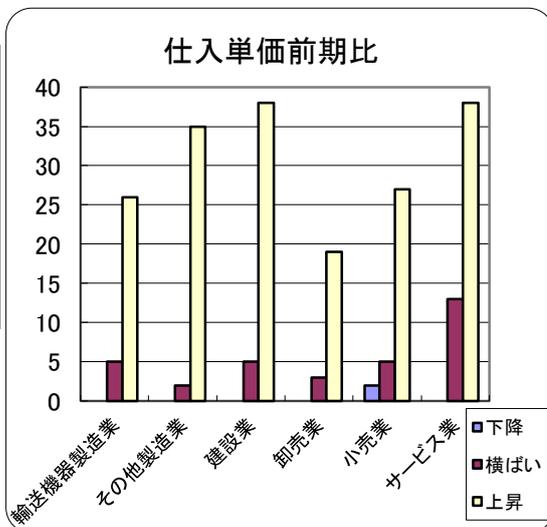
### 売上高前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	9	13	9	31	0.0
その他製造業	13	12	12	37	2.7
建設業	10	20	13	43	▲ 7.0
卸売業	8	5	9	22	▲ 4.6
小売業	3	15	16	34	▲ 38.2
サービス業	15	22	14	51	2.0
合計	58	87	73	218	▲ 6.9



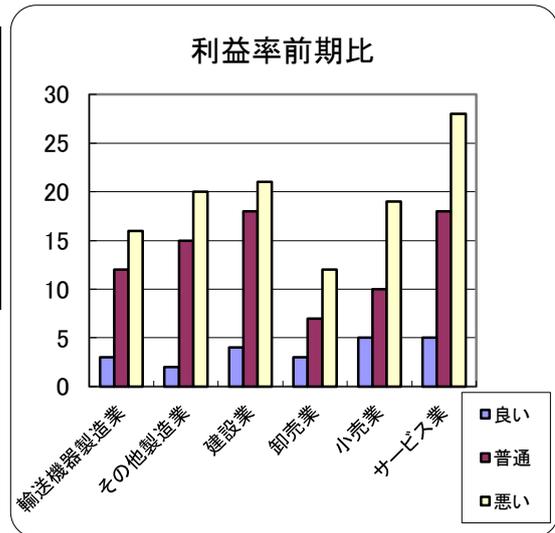
### 仕入単価前期比

	下降	横ばい	上昇	合計	DI値
輸送機器製造業	0	5	26	31	▲ 83.9
その他製造業	0	2	35	37	▲ 94.6
建設業	0	5	38	43	▲ 88.4
卸売業	0	3	19	22	▲ 86.4
小売業	2	5	27	34	▲ 73.5
サービス業	0	13	38	51	▲ 74.5
合計	2	33	183	218	▲ 83.0



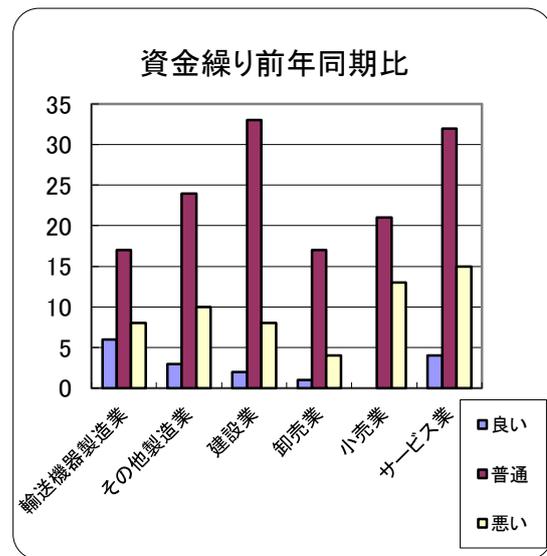
### 利益率前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	3	12	16	31	▲ 41.9
その他製造業	2	15	20	37	▲ 48.6
建設業	4	18	21	43	▲ 39.5
卸売業	3	7	12	22	▲ 40.9
小売業	5	10	19	34	▲ 41.2
サービス業	5	18	28	51	▲ 45.1
合計	22	80	116	218	▲ 43.1



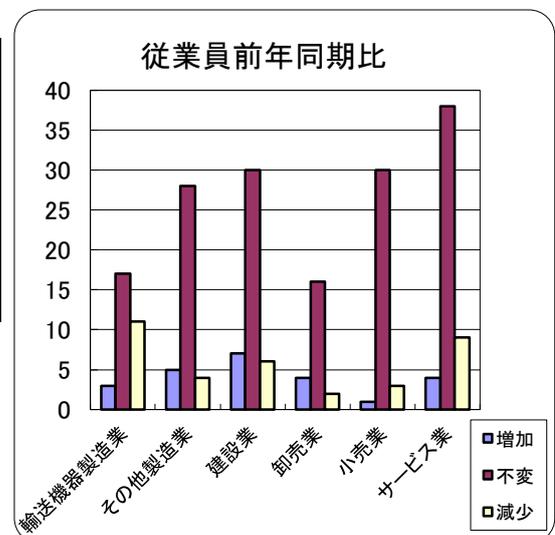
### 資金繰り前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	6	17	8	31	▲ 6.5
その他製造業	3	24	10	37	▲ 18.9
建設業	2	33	8	43	▲ 14.0
卸売業	1	17	4	22	▲ 13.6
小売業	0	21	13	34	▲ 38.2
サービス業	4	32	15	51	▲ 21.6
合計	16	144	58	218	▲ 19.3



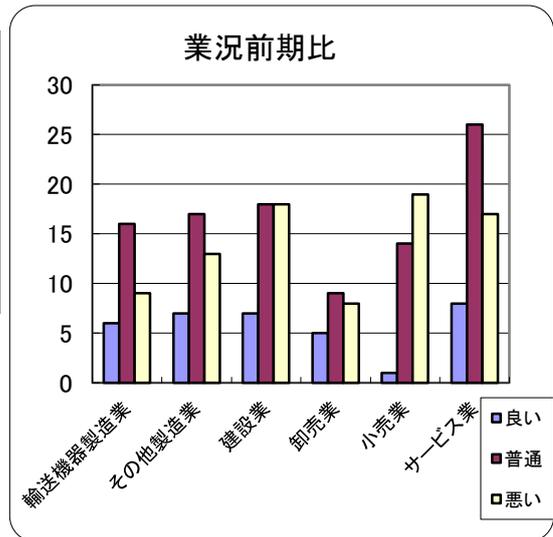
### 従業員前年同期比

	増加	不変	減少	合計	DI値
輸送機器製造業	3	17	11	31	▲ 25.8
その他製造業	5	28	4	37	▲ 2.7
建設業	7	30	6	43	▲ 2.3
卸売業	4	16	2	22	▲ 9.1
小売業	1	30	3	34	▲ 5.9
サービス業	4	38	9	51	▲ 9.8
合計	24	159	35	218	▲ 5.1



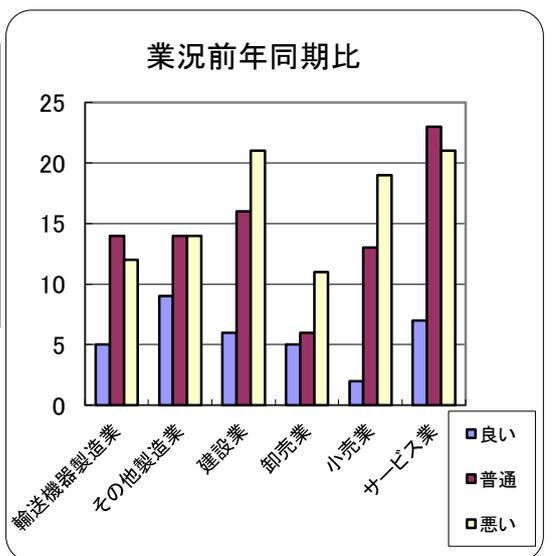
### 業況前期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	6	16	9	31	▲ 9.7
その他製造業	7	17	13	37	▲ 16.2
建設業	7	18	18	43	▲ 25.6
卸売業	5	9	8	22	▲ 13.6
小売業	1	14	19	34	▲ 52.9
サービス業	8	26	17	51	▲ 17.6
合計	34	100	84	218	▲ 22.9



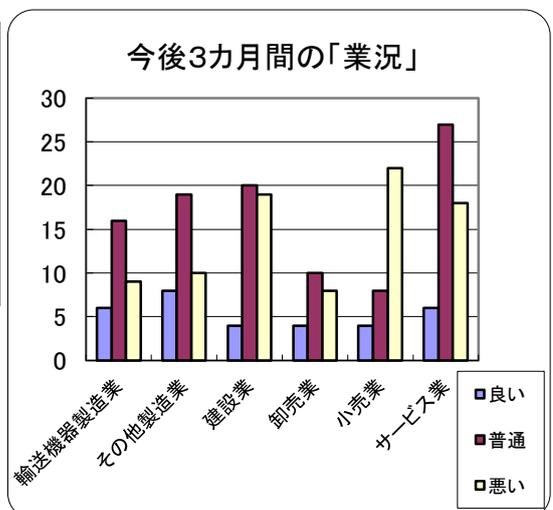
### 業況前年同期比

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	5	14	12	31	▲ 22.6
その他製造業	9	14	14	37	▲ 13.5
建設業	6	16	21	43	▲ 34.9
卸売業	5	6	11	22	▲ 27.3
小売業	2	13	19	34	▲ 50.0
サービス業	7	23	21	51	▲ 27.5
合計	34	86	98	218	▲ 29.4



### 今後3ヶ月間の「業況」見通し

	良い	普通	悪い	合計	DI値
輸送機器製造業	6	16	9	31	▲ 9.7
その他製造業	8	19	10	37	▲ 5.4
建設業	4	20	19	43	▲ 34.9
卸売業	4	10	8	22	▲ 18.2
小売業	4	8	22	34	▲ 53.0
サービス業	6	27	18	51	▲ 23.5
合計	32	100	86	218	▲ 24.8



## (2)業種別DI値について

輸送機器	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 16.7	6.5	23.2
売上高前年同期比	▲ 8.3	0.0	8.3
仕入単価前期比	▲ 63.9	▲ 83.9	▲ 20.0
利益率前期比	▲ 47.2	▲ 41.9	5.3
資金繰り前年同期比	▲ 11.1	▲ 6.5	4.6
従業員前年同期比	▲ 2.8	▲ 25.8	▲ 23.0
業況前期比	▲ 22.2	▲ 9.7	12.5
業況前年同期比	▲ 25.0	▲ 22.6	2.4
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 5.6	▲ 9.7	▲ 4.1

### [企業コメントより]

- ・資材費の価格上昇が8月からまた行われ、物があまり手に入り難い感じがします。発注数も7~8割程度が普通になっています。【金属部品加工】
- ・カーメーカーの生産動向(に影響を受けている)【内装部品】
- ・自動車業界の減産により売上高は大きく減っています。【樹脂加工】

その他製造業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	0.0	▲ 8.1	▲ 8.1
売上高前年同期比	8.1	2.7	▲ 5.4
仕入単価前期比	▲ 83.8	▲ 94.6	▲ 10.8
利益率前期比	▲ 37.8	▲ 48.6	▲ 10.8
資金繰り前年同期比	▲ 18.9	▲ 18.9	0.0
従業員前年同期比	▲ 8.1	2.7	10.8
業況前期比	▲ 18.9	▲ 16.2	2.7
業況前年同期比	▲ 10.8	▲ 13.5	▲ 2.7
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 18.9	▲ 5.4	13.5

### [企業コメントより]

- ・冬物の生産の最盛期なので売上高は伸びたが、依然消費が盛り上がらない。円安が続き、さまざまな値段が上がり、消費は低迷している。早くコロナの沈静化、ロシア・ウクライナの戦争の終わりが見えてくれば良いのだが…【ニット製品】
- ・円安や海外生産の不透明感により、国内工場に生産シフト替えになり、生産増加に転じ単価数量ともに好転。【ニット製品】
- ・コロナによる生産性の低下やエネルギー関連のコスト上昇が業績に影響している。【板金部品加工】
- ・前半は悪かったが、後半に好転する見通し。【省力化機械】
- ・中国での都市封鎖や米国インフレを受けての円安など、調達面で大きな影響を受けると考えられる要因がありますが、一方でこれらが人材不足や人件費の高コスト化による機械化への動きが加速する要因ともなり、需要は拡大するものと考えられるため、減少幅は小さいものになると考えられます。【電子部品パーツ】
- ・政府は、急激な円安、物価高騰に対する対策を講じないことから(エネルギー対策を除く)、自ら値上げを断行しなければならないと考え、第2回目の値上げを実施した。仕入単価も上昇することが考えられることから、10~11月を目途に3回目の値上げをする予定である。【食料品製造】
- ・前期が悪すぎたので今期は良いように感じる。電気代がどんどん上昇しているので、じわじわ影響が出そう。プラスチックの塩ビ、ポリアセタールが特に今、手に入りにくくなっている。材料メーカーによると、あと1年は材料入手困難は続きそうとの事。材料が手に入らなければ、仕事はあっても断らなくては行けなくなるので、国になんとかしてもらいたい。【プラスチック製品】
- ・資材価格の上昇と入手困難【梱包資材】

建設業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 15.9	▲ 7.0	8.9
売上高前年同期比	▲ 34.1	▲ 7.0	27.1
仕入単価前期比	▲ 93.2	▲ 88.4	4.8
利益率前期比	▲ 47.7	▲ 39.5	8.2
資金繰り前年同期比	▲ 29.6	▲ 14.0	15.6
従業員前年同期比	2.3	2.3	0.0
業況前期比	▲ 38.6	▲ 25.6	13.0
業況前年同期比	▲ 36.4	▲ 34.9	1.5
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 29.6	▲ 34.9	▲ 5.3

[企業コメントより]

- ・材料費の高騰による採算割れの案件がある。発注者(官庁・民間)の対応次第で赤字工事が出る可能性あり【土木工事】
- ・原材料費が全てにおいて値上がり傾向にある。今後も続く予想【エクステリア工事】
- ・現況では、材料の価格高騰と入荷未定の品物が多く、人手不足(従業員及び下請業者共)の影響が大きく受注にならない。売上高の増加は工期の重なった物件があったため【電気工事】
- ・全体的に現場数が少ない【建築付帯工事】

卸売業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	▲ 17.9	▲ 9.1	8.8
売上高前年同期比	▲ 7.2	▲ 4.6	2.6
仕入単価前期比	▲ 92.9	▲ 86.4	6.5
利益率前期比	▲ 57.1	▲ 40.9	16.2
資金繰り前年同期比	▲ 25.0	▲ 13.6	11.4
従業員前年同期比	14.3	9.1	▲ 5.2
業況前期比	▲ 35.7	▲ 13.6	22.1
業況前年同期比	▲ 39.3	▲ 27.3	12.0
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 14.3	▲ 18.2	▲ 3.9

[企業コメントより]

- ・品物不足と価格改定が続いている。これに伴い変わってしまった商流が戻らない。行政においても何らかの支援対策を望みます。原油価格・物価高騰経営対策支援金の受付があったが業種が限られ、対象外となっている。私どもも影響をうけているのですが…いかなるものでしょう？【電気資材卸】
- ・団塊の世代が後期高齢者(75歳以上)世代に入り、今後弊社の業務がかなりマッチングしてきております。年々売上の増が続き、この状況が永く続くと思われます。【医療用資材卸】
- ・住宅リフォーム補助金支援事業申請の件ですが、(以下要約)①補助金を短期間で反復して受けられるようにし、加えて②必要書類の簡素化を図り申請しやすくして欲しい(こうすれば建築需要が増すのではないのでしょうか?)【住宅資材卸】
- ・各メーカーが原材料価格や物流費の高騰により値上げに踏み切ります。特に大手ビールメーカーは10月より価格改定に付き、仮需要物流増加と購買意欲が増加傾向にあります【飲料卸】
- ・仕入単価の高騰と、品物の物量が少ないため、日々値段が高くなっていく。人件費もガソリンも高くなるため、少しずつ日々利益が下がるため、値段を上げるなどの対応しかない【生鮮食料品卸】

小売業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	0.0	▲ 35.3	▲ 35.3
売上高前年同期比	▲ 12.9	▲ 38.2	▲ 25.3
仕入単価前期比	▲ 71.0	▲ 73.5	▲ 2.5
利益率前期比	▲ 58.1	▲ 41.2	16.9
資金繰り前年同期比	▲ 29.0	▲ 38.2	▲ 9.2
従業員前年同期比	0.0	▲ 5.9	▲ 5.9
業況前期比	▲ 25.8	▲ 52.9	▲ 27.1
業況前年同期比	▲ 35.5	▲ 50.0	▲ 14.5
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 48.4	▲ 53.0	▲ 4.6

[企業コメントより]

- ・来店のお客様一人当たりの食事量が少ない(単価が少なくなった)。コロナのために太田市内の客が少ない。【食品製造小売】
- ・原材料費・エネルギーコストの増加【菓子製造販売】
- ・コロナの長期化や天候不順が足を引っ張っている。更にウクライナ問題が最大の原因になっている。【食品・化粧品販売】
- ・零細企業の為、社員・スタッフ(アルバイト)が、コロナ感染や濃厚接触者等になり、欠勤者が出て生産性が低下している。又、仕入価格よりもその他経費が上昇している為、利益率が低下【装飾品・化粧品販売】
- ・仕入値の上昇と、客単価の減少。毎日打開策を考えています。【食肉加工品販売】
- ・仕入先からの値上金額をそのままお客様への値上幅にすると利益率が下がる。本当は仕入先からの値上金額プラス当店の利益を取らなければならないが、なかなか上乘せできず、利益率が下がる。【飲料販売】
- ・7月猛暑で自販機売上げ増加でしたが、8月9月イベント全く無し。コロナ禍拡大で売上減です。太田市は他市町村に比べてお祭りやイベントが少ないのか不思議です。【飲料販売】
- ・仕入単価流通経費の上昇が利益圧迫要因となる【米穀店】
- ・新規のお客様も増えたり、内容的には良い部分もあり全て悪い訳ではないが、取引先の条件がどんどん厳しくなり、当店のように小さい規模の店は考えなければならない。【化粧品販売】
- ・仕入単価の上昇分を価格に転嫁したが、コロナ資金の返済が始まってしまい資金繰りが厳しい。このままでは今期赤字になりそうである。【生花店】
- ・喫煙者に対する風当たりがさらに強くなる事が予想されるが、コアなお客様のニーズに対応するのみ【嗜好品販売】

サービス業	前期(4~6月期)	今期(7~9月期)	比較増減
売上高前期比	6.6	0.0	▲ 6.6
売上高前年同期比	▲ 1.6	2.0	3.6
仕入単価前期比	▲ 63.9	▲ 74.5	▲ 10.6
利益率前期比	▲ 44.3	▲ 45.1	▲ 0.8
資金繰り前年同期比	▲ 26.2	▲ 21.6	4.6
従業員前年同期比	▲ 6.6	▲ 9.8	▲ 3.2
業況前期比	▲ 11.5	▲ 17.6	▲ 6.1
業況前年同期比	▲ 6.6	▲ 27.5	▲ 20.9
今後3ヶ月間の業況見通し	▲ 14.8	▲ 23.5	▲ 8.7

[企業コメントより]

- ・営業体制の変更による改善(があった)【情報】
- ・燃料の値上がりにより経費上昇。【運送業】
- ・自動車の生産がやや持ち直してきた。ただし、まだ従前のような生産量に回復していない。【陸送業】

- エネルギーや原材料の値上げ、過度な円安が今後どうなっていくのか。今の日本の状況を考えるとしばらく厳しい経営環境が続くと考えられます。価格の引き上げや取引先との交渉を細かめにやっていき、対応していくしか方法はないと思います。【広告・情報関連事業】
- ベンチャー企業は、前年より売上が下がっていたら潰れてしまう。対前年比で補助を出すのも大切だが、スタートアップ企業に対する融資を含めた支援が欲しい。【広告】
- 前年は時短要請のため通常営業ではなかったため、今年は前年よりは良い。しかし、それでも7～9月期は平年の80～85%程度だろうと予想している。夏期は繁忙期なので前期よりは良い。仕入れは各種値上げがあり、じわじわと経営を圧迫してきている。仕入価格の増加を販売価格に転嫁するのも検討する。繁忙期を過ぎたので、基本に立ち返り、商品のブラッシュアップ、生産性の向上のためスタッフとの意見交換、店内清掃などに時間を割こうと思う。結果、顧客満足度が上がることに繋がればと。数年のコロナ下で人々の行動様式が変わったので、店の有りようも今後は変えていかなくてはならない。そのようなこともスタッフと意見を交換していこうと考えています。【外食】
- 売上が増加したのは値上げした為で、実際、売り上げは減少傾向である。【食品製造販売】
- 各企業様、お得意様等の宴会施行などがまだありません。コロナ第7波は厳しいものがあります。【飲食サービス】
- 本来、自動車メーカーは4～6月に対して7～9月は昇り龍のごとく生産が回復していくはずであったが、部品調達の状況や従業員の新型コロナ感染の状況により思う様な生産にはなっていない。逆に9月は8月よりも生産数量が減るといった危険な状況に入ってきている。部品の仕入状況と感染状況が今の状態で1～2年続くとしたら、財政面でもたない企業が何割でてくるのか。【資源回収】
- Withコロナも浸透し客足も戻りつつあります。【理容業】
- 仕入れの値上げラッシュでキツイです。店頭の値上げはしづらい。【居酒屋】
- 新型コロナウイルス…(が依然影響中)【医療介護】
- 売上はコロナ禍前には戻らずとも少し上向きだが、利益はコロナ禍のほうが良いくらいだ！改めて商売の見直しを必要とする。経営相談を実施する。【和食店】



## (5) 比較資料編

当所調査のDI値をもとに、同様の景況調査を行っている機関とのデータ比較を行った。

(なお、日本商工会議所のLOBO調査については毎月調査となっているため、1～3月の平均値でDI値を算出)

### ①売上高前期比DI (「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 1.5	▲ 9.0	-	-
建設業	▲ 7.0	▲ 12.5	-	-
卸売業	▲ 9.1	▲ 14.7	-	-
小売業	▲ 35.3	▲ 22.5	-	-
サービス業	0.0	▲ 12.0	-	-
全体	▲ 8.3	▲ 13.9	-	-

### ②売上高前年同期比DI (「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	1.5	-	▲ 2.2	3.6
建設業	▲ 7.0	-	▲ 21.6	3.0
卸売業	▲ 4.6	-	▲ 3.3	
小売業	▲ 38.2	-	▲ 15.0	
サービス業	2.0	-	6.3	
全体	▲ 6.9	-	▲ 6.1	3.1

(↑非製造業という括り)

### ③仕入単価前期比DI (「下降」と答えた割合－「増加」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 89.7	-	▲ 81.5	-
建設業	▲ 88.4	-	▲ 85.9	-
卸売業	▲ 86.4	-	▲ 71.3	-
小売業	▲ 73.5	-	▲ 68.9	-
サービス業	▲ 74.5	-	▲ 63.9	-
全体	▲ 83.0	-	▲ 73.9	-

(仕入単価・前年同期比)

### ④利益率前期比DI (「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 45.6	▲ 29.8	▲ 30.4	▲ 11.8
建設業	▲ 39.5	▲ 33.4	▲ 34.0	▲ 6.4
卸売業	▲ 40.9	▲ 22.3	▲ 21.8	
小売業	▲ 41.2	▲ 37.9	▲ 27.5	
サービス業	▲ 45.1	▲ 30.4	▲ 15.9	
全体	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 25.7	▲ 7.9

(採算・前年同期比) (採算・前年同期比) (経常利益・前年同期比)

### ⑤資金繰り前年同期比DI (「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合)

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(全規模)
製造業	▲ 13.2	▲ 12.8	▲ 16.3	9.0
建設業	▲ 14.0	▲ 7.3	▲ 11.6	12.0
卸売業	▲ 13.6	▲ 12.0	▲ 11.7	
小売業	▲ 38.2	▲ 22.0	▲ 24.8	
サービス業	▲ 21.6	▲ 16.1	▲ 16.3	
全体	▲ 19.3	▲ 15.4	▲ 16.7	11.0

(前期比)

(直近比)

⑥従業員前年同期比DI（「増加」と答えた割合－「減少」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 10.3	▲ 4.5	－	－
建設業	2.3	▲ 4.5	－	－
卸売業	9.1	▲ 4.4	－	－
小売業	▲ 5.9	▲ 2.9	－	－
サービス業	▲ 9.8	▲ 5.2	－	－
全体	▲ 5.1	▲ 4.3	－	－

⑦業況前期比DI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 13.2	▲ 15.2	－	▲ 4.0
建設業	▲ 25.6	▲ 13.6	－	9.0
卸売業	▲ 13.6	▲ 18.5	－	0.0
小売業	▲ 52.9	▲ 27.8	－	▲ 15.0
サービス業	▲ 17.6	▲ 18.8	－	▲ 21.0
全体	▲ 22.9	▲ 19.5	－	0.0

(サービス業は宿泊・飲食の数字)

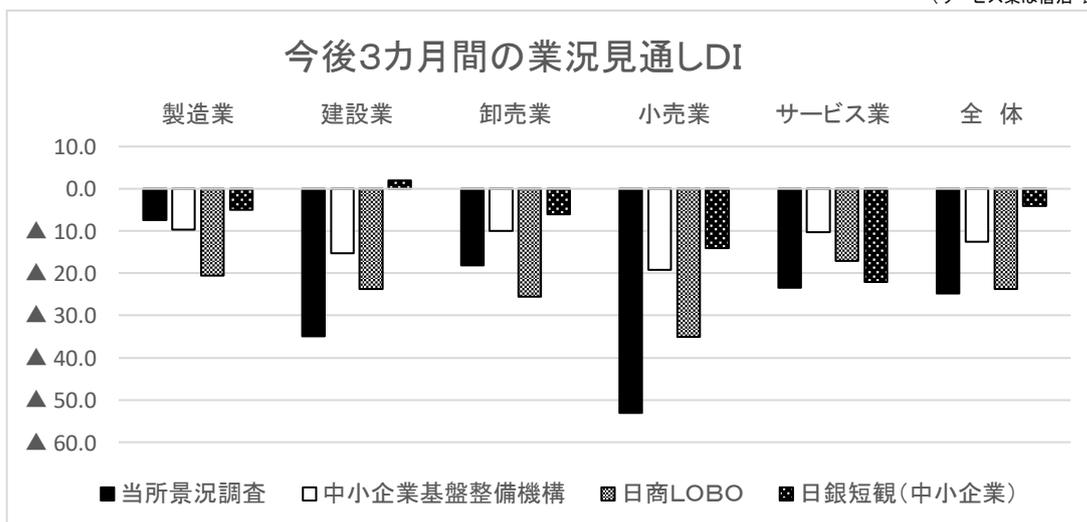
⑧業況前年同期比DI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 17.6	－	▲ 20.0	－
建設業	▲ 34.9	－	▲ 27.9	－
卸売業	▲ 27.3	－	▲ 23.4	－
小売業	▲ 50.0	－	▲ 29.3	－
サービス業	▲ 27.5	－	▲ 8.6	－
全体	▲ 29.4	－	▲ 20.7	－

⑨今後3ヶ月間の業況見通しDI（「好転」と答えた割合－「悪化」と答えた割合）

	当所景況調査	中小企業基盤整備機構	日商LOBO	日銀短観(中小企業)
製造業	▲ 7.4	▲ 9.7	▲ 20.5	▲ 5.0
建設業	▲ 34.9	▲ 15.2	▲ 23.7	2.0
卸売業	▲ 18.2	▲ 9.9	▲ 25.5	▲ 6.0
小売業	▲ 53.0	▲ 19.2	▲ 35.1	▲ 14.0
サービス業	▲ 23.5	▲ 10.3	▲ 17.1	▲ 22.0
全体	▲ 24.8	▲ 12.6	▲ 23.7	▲ 4.0

(サービス業は宿泊・飲食の数字)



# 太田商工会議所管内景況調査報告書

～調査・分析・発行～

太田商工会議所

〒 373-8521

群馬県太田市浜町3-6

TEL 0276 (45) 2121

FAX 0276 (45) 1088

URL <http://www.otacci.or.jp>

Mail [info@staff.otacci.or.jp](mailto:info@staff.otacci.or.jp)

2022年（令和4年）10月21日 発行